

# テーマ①

## 第1段階原因（最優先）

## 第2段階原因（最優先）

判断能力が低下した場合、検査や手術、CPR（心肺蘇生法）など治療方針や医療行為への判断に困る場合がある。

本人の意志確認ができていないから

元気で話す機会が無く、話題にもできなかったから（身寄りが無い人などリスクの高い人は事前の話し合いが大切。ACPが大事）

自分の状況が理解できていない。医療、福祉従事者がガイドラインを理解できていないから

ガイドラインの存在を知らない人が多く浸透していないので知識がなく説明が難しいから（それでどうやって本人や家族が理解できるようにするのか）

本人の判断能力がある内に本人の意思確認ができていないから

医療スタッフが先を予測できず、本人、家族に事前に今後の確認ができていないから

本人が決めるべきことを、関わっている周りの人が決めてしまっているのか不安だから

本人が望んでいることと支援者の本人の気持ちの憶測が一致しているのかわからず不安だから

医療行為への理解がないから。事前のACPがないから

医療行為が漠然としていて考えることができないから

判断能力があるときにこのような話し合いがされてこなかったから

そのような話に触れるのは悪いと思っていて避けていたから（医療職がガイドラインを知らない）

## 第1段階原因（最優先）

## 第2段階原因（最優先）

### テーマ②

受診や施設入所が必要になった場合、病院、施設が探しにくい場合がある。

身寄りのない方を受け入れる施設が少ないから（身寄りがない方の医療行為をした医療機関に後から家族が出てきてトラブルになる）

- 受け入れた経験がない施設が多い
- トラブルになった経験があり受け入れたくない
- 業務の範疇外の対応が必要になる。急変時のリスクが高く業務負担が大きいから

本人の判断能力が曖昧なため、本人の意向をはっきり確認できないから

本人との信頼構築で意思をはっきり伝えることができない。表出しやすい環境でないから

「保証人がいないから」と断られることが多い

- 費用を保証してくれる人がいない
- 成年後見人の手続きがお金がかかり大変そうだから

支援者がいない

本人のパーソナリティに問題があり、これまで金銭などのトラブルがあり家族や周りが拒否しているから

本人と家族の意向に食い違いがある

- 本人と家族が今後のことを話し合っただけでなかったから
- 利用できる制度を知らない

急変し入院や入所時を想定した話を本人としいなかったから

ネガティブな話を本人へ伝えにくかった。